

Profile



小森 輝彦 バリトン

日本人初のドイツ宮廷歌手。ブラハ州立歌劇場「椿姫」ジェルモン役で欧州デビュー後、独アルテンブルク・ゲラ市立歌劇場専属第一バリトンとして12年間活躍。その傍らザルツブルグ音楽祭をはじめヨーロッパ各地に客演。近年では、ベオグラード・フィルと共演し国際的にも活躍を続ける他、東京二期会『ローエングリン』テルラumont、『ファルスタッフ』フォード、『ルル』シェーン博士、『こうもり』アイゼンシュタイン、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『平和の日』包囲された街の司令官役（日本初演）、『午後の曳航』塚崎竜二（改訂版日本初演）、日生劇場『リア』リア、新国立劇場『沈黙』フェレイラ、神奈川県民ホール『金閣寺』溝口などに出演。今までに演じた役は82を数え、充実期を迎えた演奏に熱い期待が寄せられている。ドイツ滞在時から現地で高く評価されたリート歌手としての活動も盛んに行い、国内でもその深い文学的解釈に裏付けられた表現力で聴衆を魅了し続けている。レコード芸術準特選盤に選ばれた初CD「R.シュトラウス歌曲集」に続き2024年に「シューベルト冬の旅」をリリースし高い評価を受けている。2017年に歌唱におけるメロディーと明瞭な発音の両立を研究する「歌唱発音研究隊〜KHK〜」を立ち上げ、様々な言語の歌唱法について講座を企画。自らも講座や公開レッスンを行い、後進の指導にも精力的に取り組んでいる。

現在、二期会会員。二期会幹事。東京音楽大学教授。日本R.シュトラウス協会常務理事。日本声楽発声学会理事。



田原さえ ピアニスト

仙台市出身。武蔵野音楽大学・同大学院を経て、'90年ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学修了、オーストリア政府芸術修士を取得。同大学ではピアノ室内楽及びドイツ歌曲の解釈と伴奏法を専攻し、1988年にはザルツブルグにおいてG.スゼー氏のリサイタルでの伴奏者に抜擢された。帰国後は東京と仙台を中心に、リサイタルの開催（18回）やP.L.グラーフ（フルート）との共演など幅広い演奏活動を展開し、公開レッスンなどでの通訳も数多くこなしている。

平成15年度仙台市市民文化事業団主催による「Classic Live For You」をプロデュース。第2～9回仙台国際音楽コンクールでは企画推進委員としてチャレンジジャズライブのコーディネーターをつとめる。また、音楽を通して若手演奏家や子どもたちへの社会貢献にも力を注いでいる。

平成29年度宮城県芸術選奨受賞。'10年12月にソロCD「それは、懐かしい時の始まり」を、またP.L.グラーフ氏とのライブCD「コンチェルティーノ」（'13年6月）、「リサイタル」（'18年12月）、「LEGEND IN FLUTE」（'22年4月）をリリース。同氏の著書『フルートの響きを豊かにする52の質問』翻訳（'21年7月）。

現在、日本音楽表現学会会員。昭和音楽大学及び常盤木学園高等学校音楽科講師。仙台パッパゼミナール代表。（一社）ミュージックプロデュースMHKS理事。